



飯塚時代の白蓮（大正5年）

母と児が並びし床の空しきを思ひやるなり我も人の親

君が書きしおとぎ噺の本なども棺に入る、か見るに得堪えず

村岡氏の念息の死を悼む

白蓮が過ごした 筑豊の炭鉱王の豪邸

伊藤伝右衛門

旧伊藤伝右衛門邸の全景（庭に面した2階部分が白蓮の居室）



「もし昔私が九州にお嫁に来なかったら、たぶんろくな歌も読めなかったろうし（中略）」（西日本聞「いまは恋し筑紫／白蓮」より）と告白している白蓮。過ごしたのはまさにこの筑豊の炭鉱王・伊藤伝右衛門邸だった。広大な庭園と和洋折衷の流麗な邸宅は当時の栄華を物語っている。また、白蓮を迎える伝右衛門の気持ちを示唆するように、邸宅内には優しさや贅の極みが尽くされている。

取材協力・瀬下麻美子（飯塚市観光アドバイザー）
写真・KOKI SUNADA（伊藤伝右衛門邸）



応接間のマン
トルピース。連続
する花模様があ
しらわれている



白蓮が使用した2階部分。茶室の趣を
備えた入口、随所に数寄屋風の細工